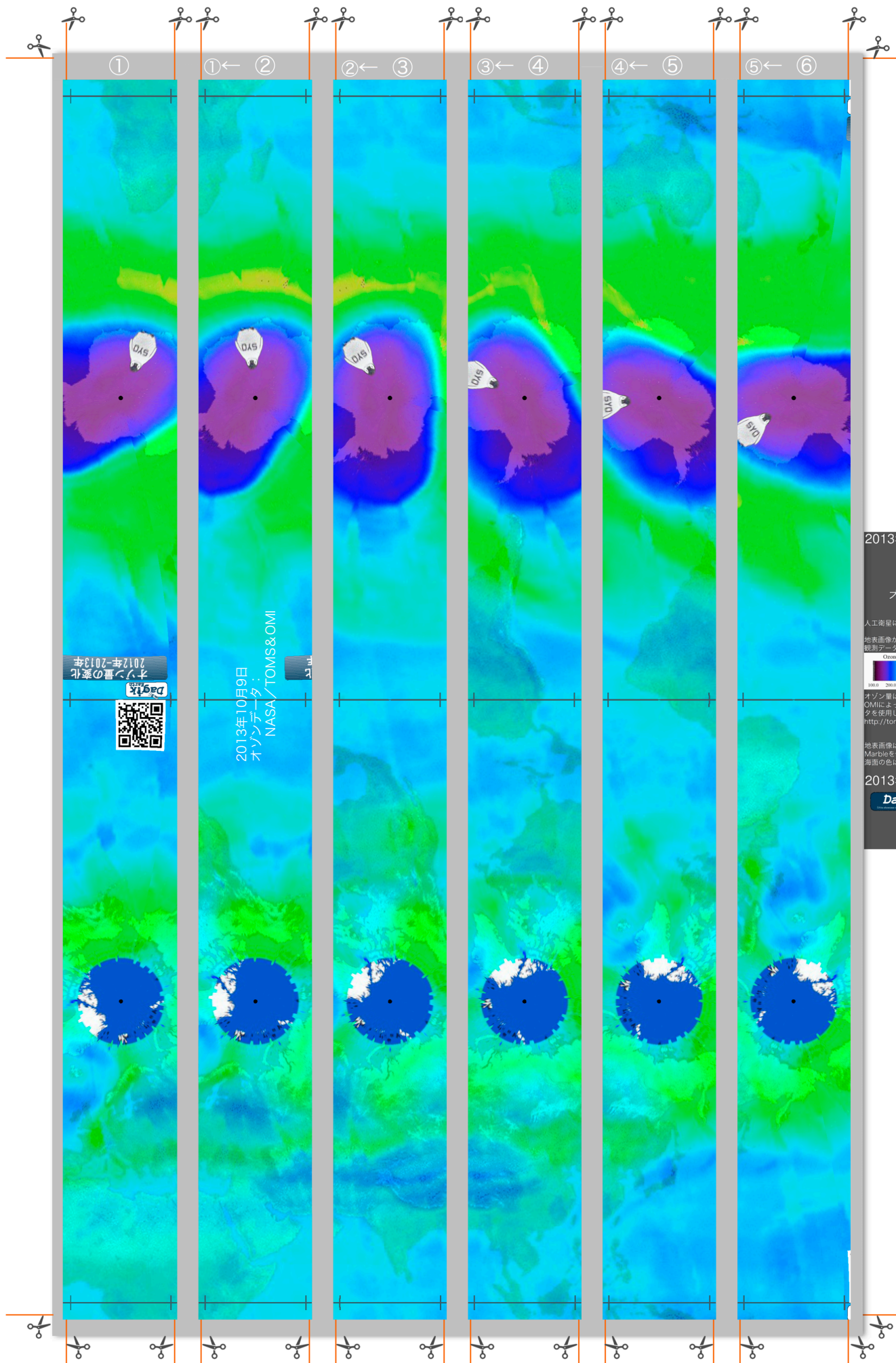


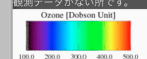


2013年10月09日

オゾン量

人工衛星による2日間の観測

地表画像が見える所は、観測データがない面です。



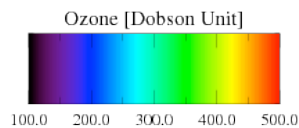
オゾン量はNASAのTOMSとOMIによって観測されたデータを併用しています。
<http://toms.gsfc.nasa.gov/>

地表画像はNASAのBlue Marbleを使用しています。海面の色は変更してあります。

2013年10月09日

Dagik

低軌道の人工衛星によって観測されたオゾン全量(鉛直方向に積算したオゾン量)です。2013年10月9日の観測です。南半球の冬から春にかけて、南極上空にオゾンホールが見られます。北極周辺のデータがなく、地面や海面が見えている所は、太陽光が当たらずにオゾンの観測ができていない所です。オゾンは太陽光が当たらないと衛星から観測できないため、5月－8月あたりの南極と11月－2月あたりの北極は観測ができません。



データ: NASAのTOMSとOMIによって観測されたオゾン量データ

データ提供: NASA/GSFC Ozone and Air quality NASA/GSFC Ozone and Air quality

地表画像: NASA Blue Marble: Next Generation (MODISによって撮影された地表画像)。海の色は変更してあります。

コンテンツ説明: <http://dagik.org/A-5-2>

手作り地球儀のつくり方：帯型シート（直径 7.5cm）

準備するもの

- ・直径 7.5cm の球（ガチャガチャカプセルや発泡スチロール球など）
 - ・印刷する紙（再剥離タイプのノーカットラベルシートがお勧め）
 - ・カラープリンター（インクジェット式の方が色が剥がれずにきれいに作れます）
 - ・カッターと定規（あるいはハサミでも）
 - ・スプーンなど硬いもの（貼り付けた後で、シワを伸ばすのに使います）
- 必要に応じて：
- ・のり（ラベルシートではなく普通紙に印刷する場合は必要）
 - ・磁石や重り（ガチャガチャカプセルの場合はカプセルの中に磁石や重りを入れられます。発泡スチロール球の場合は、穴を開けて埋め込むことができます。）

（印刷する）

- (1) 拡大縮小をせずに **100% のサイズで印刷** します。（画像が印刷されている帯の両端付近の線の間の長さが **23.5cm** くらいに印刷されます。）

（切る）

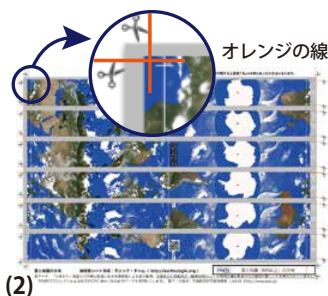
- (2) **オレンジの線**（灰色と画像の境界ではなく）でまっすぐに切り取り、6本の帯にします。

（貼る）

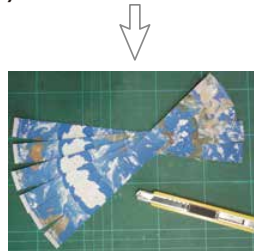
- (3) **数字の順番**に貼ります。まずは①の帯を貼りましょう。
- (4) カプセル球の線と、型紙の赤道の線を合わせて貼ります。数字が書いてある所を下に重ねよう、南極等の・マーク（黒点）も目印にしながら貼ります。
- (5) 球を両手で軽く握り、紙①をなじませます。
- (6) 次の②の帯を①の右側に貼ります。向きに注意してください。少しずつ重なるようになっていきますので、赤道の短いたて線マークを重ねてください。
- (7) あとは同じように繰り返し線や画像ができるだけずれないように重ねて貼り合わせましょう。

（シワを伸ばす）

- (8) 貼り付けた帯がよれて、シワになっている部分を、スプーンの背中（丸い方）でこすって伸ばし、平らにしてください。全ての帯を貼ってからこすっても良いですし、1枚の帯を貼るごとにこすっても良いです。



(2)



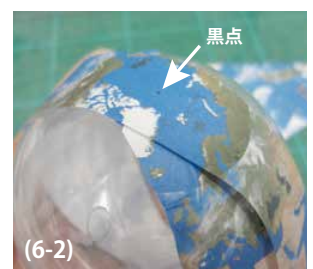
(3)



(4)



(6-1)



(6-2)



(7)